

■パブリックコメントと教育委員会の考え方について

No.	意見内容	教育委員会の考え方
1-1	中学校の施設を小学生に流用することは不適切である。特に、一中は当時の建築の流行で、「打ちっ放し」と呼ばれるコンクリートをむき出しにした壁様式を多用している。10歳未満の小さな子供の情緒を育成するにあたり、この建物が日常温かく迎え入れてくれる施設であるとはいいがたい。	どちらの校地を使用するとしても、小学校として使用できるように改修工事を行います。また、コンクリート打ちっ放しのデザインが子どもたちの情緒に影響を及ぼすというご指摘については、関係性が確認できませんのでご意見として承ります。
1-2	引っ越しはなるべく南に移転するのが定説。大町は、除雪に対して国や県の補助金が下りるほどの豪雪地帯である。「嫁に行くなら、南に転がれ」というのが、この地域では常識だそうである。市内でも、終の棲家を常盤以南、池田、松川に移動する選択をなされる方が多く見受けられる。たとえ直線距離600mであっても、積雪の量と寒さが大きく違う。掛かる暖房費用も違ってくる。	「引っ越しは南に」という意見は主観的なものであり回答できません。また、600mの距離が暖房や積雪に与える影響は、ほとんどないものと考えています。
1-3	市の機能の中核に近い利点は大きい。徒歩で、見学に行ける公共施設と企業の量を比較する。バス移動には費用と時間が掛かるが、西小の子供たちは「消防署」、「警察署」、「郵便局」、「デリシア」、「ホクト」、「リンゴ園」を徒歩で見学に行き、戻って給食を食べることができる。	両候補地の近隣には、ご指摘の施設以外の施設や文化財などもあり、両候補地間の距離は約600mですので、ご指摘の点は教育指導上大きな差異がないものと考えます。
1-4	魅力あるまちづくりのための立地選定をすべき。子どもたちが田舎で暮らす不利益は多い。それでも様々な理由で大町を選んで暮らしている。子育てにより良いまちづくりを目指すのなら、費用重視ではなく、昨日の意見を取り入れて西小学校を選定しても市民の理解は得られると考える。	子どもたちにとってより良い教育環境を整えることが最も重要な課題ですので、この点を最優先し、その上でまちづくりなど地域社会との関係も考慮する方針です。
1-5	保育園の推移を検証してみる。今の中学3年生で比較すると、はなのき(第2)保育園の年長児が30人。しらかば(第4)保育園の星組さん、年長児は7人。この子たちが、保育園から義務教育を終えるまでの間に、北小の通学区の保育園は、2園がくるみ保育園として一つの園に統合され、かえで(第1)保育園が廃園となった。今、土曜保育ははなのき保育園だけで行われ、ほかの園の子もお布団をもって土曜保育に移動するようになっているはずである。 この場合、ほかの園の子は車での移動しか選択肢はない。せっかく、はなのき保育園に通う前提で徒歩圏内に居を構えたとしても、小学校が一中になってしまうのでは、6年以上の間、車での通学の補助を検討しなくてはならなくなる。	大町・平地区を通学区とする新小学校には、西小学校に通学している児童のほか、現在、北小学校に通学している児童や東小学校に通学している大町地区の児童も通学することになります。したがって、ご指摘の対象となる全保育園や幼稚園の配置等も考慮しながら、大町・平地区全体の利便性や通学方法等を総合的に検討して評価します。
1-6	アンケートが、今回の選定に不向きだというのは西小側が多数になってしまうからだと思う。ですが、市民が多数目にする広報誌等に、意見を集めるためのQRコードを載せるのはいかがか。自由表記だと、集計が大変になってしまうので、リンク先はフォーム形式になっているといいかもしれない。 集会を開催するよりも、多くの意見を寄せてもらうことができると思うし労力も減る。市民説明会で聞いたスケジュールでは広報の活用は無理かと思うが、何かしらアクションをしないと、決定後に「知らされていないかった」という市民の不満が噴出することは避けられない。	アンケート調査については、両校地の現状や課題、工事手法や総工費、財源などが大きく異なっており、しかも市内全域に係る問題ではないので、単純な比較が難しく、対象範囲の設定も困難ですので、アンケート調査に適していないことをご理解ください。 このため、令和2年度に保護者や地域代表、教育関係者等からなる条例に基づく通学区再編審議会を設置して校地の選定を含めて諮問しましたが、大町・平地区を通学区とする小学校については、再編審議会でも結論が出ずに両論併記の答申をいただきました。 このため、教育委員会が総合教育会議での協議と市議会全員協議会での報告を経て評価項目を設定し、広報やホームページ、新聞紙上でも仮評価を公表して市民説明会やパブリックコメントでご意見をいただき、その上で再評価を行い最終的な決定をする手順としたことをご理解ください。
1-7	市民説明会に西小学校のPTA会長を経験され、また現役の方がおいでになっていたが、多くが「西小学校⇒一中」のご家庭である。それでも、「小学校は西小学校の利用で、希望されるのだから、それを総意だと受け止めていただいてもいいかと考える。保護者の要望が、採択に反映されますことを切に願っている。	9月13日の説明会に36人、20日の説明会に29人、延べ65人の方が出席されましたが、両日とも出席された方も多数います。説明会での発言の多くは、大町・平地区の小学校について現西小学校を候補地という意見でしたが、出席者の状況や発言の趣旨からは大町・平地区全体の総意を代表しているとは判断いたしかねますので、いただいたご意見について慎重に検討し、総合的に判断する方針であります。
1-8	意見の集約方法についてコメント。現在、パブリックコメントを募集しているということ、昨日の集会で知ったが、小学校に在籍している子を持つ私でもそのことを知らなかった。「お寄せください」という割には、市民説明会参加者の意見をほかに吸い上げる仕組み(投稿先と手段)の明示がなかった。 また市民説明会について、市役所に勤務されている方や、教育委員さんも時間外にご苦勞していただいたが、あの「集会」という手法は時代にそぐわない。主婦は18時～20時は自分の時間を持ってない。	パブリックコメントについては、市広報10月号(9月27日配布)での告知のほか、市ホームページやケーブルテレビ、有線放送、報道機関等でもお知らせしており、できるだけ周知に努めてまいりました。 また、市民説明会の時間帯については、さまざまな立場の市民の方がおられることや、これまでの説明会の参加状況等を考慮して最も参加しやすい時間帯を選定したことをご理解ください。
2-1	遊具について、西小同等の整備が必要とのことだが、トンネル山は一中にも作ってくれるのか。	小学校地として第一中学校を選定した場合の遊具等については、安全・安心を最優先に、教職員をはじめ専門家のご意見を聞きながら、最適な遊具や遊び場を整備することとしています。その際、ご質問の築山(トンネル山)の整備についても検討することになります。
2-2	スクールバスについて、どうしても校地内にスクールバスを乗り入れないといけないのか。一中も車の出入りは直角に曲らないといけないので大変、道路が広いというだけで「◎」はいかがなものか。西小は中学校の様に市役所を停車場にすれば、バス通学生も少しでも歩いたほうが体力的にも良いと思う。	スクールバスの乗降場所等の設定については、徒歩で通えるやや離れた場所を選定してはいかがかとのご意見ですが、利用する児童の安全性を最優先に総合的に検討しており、乗降について教職員が指導できる校内での設置を前提として検討しています。
2-3	校地について、私も兄弟も含めとにかく子どもは外で遊ぶので、広い方が生活・総合の授業の幅が広がる。広い敷地を狭くすることはできるが、狭い敷地を広くすることは無理。	両候補地を比較すると校地全体については、現西小学校地の方が約5,000㎡広くなっています。今後の児童数や職員数の推移等に基づき、管理体制等を含めて適正な校地面積や施設整備等について総合的に検討いたします。

No.	意見内容	教育委員会の考え方
2-4	<p>防音性について、一中は道路から遠いので問題ない「◎」の根拠は。実際に学んでいたのだから、国道147号、県道槍ヶ岳線が近く観光バスやトラック、救急車の音、車の音など西小と比べるととてもうるさい。また、夏には冷房を使用するためにはある程度気温が高くならなければ使用許可がおりない。それまでは窓を開けるなどして凌いでいた。冬も休み時間には必ず窓を開け換気をしていた。その際の騒音は結構うるさくて、テストなどの時には集中できないくらいうるさかったと記憶している。</p> <p>それに比べると西小の周辺は交通量の少ない道路、周辺住民の方の生活道路のみなので騒音が気になった記憶は一切ない。聞こえて来るのは鳥の声や虫の声、風の音くらい。根本的に交通量の多い道路が近ければ防音性を上げたところで効果は薄いと思う。</p>	<p>西小学校の設計・施工監理を行った設計事務所の専門家によれば、防音性については、現状では第一中学校の方が優れているが、西小も第一中学校とほぼ同等の整備が可能であるとの指摘でしたので両候補地とも「◎」となりました。</p> <p>窓を開けたときの騒音については、両校地とも国道147号から一定の距離があり、自動車交通騒音測定では環境基準が満たされていることや、現状では支障がない旨の教職員の意見も参考に両校地とも差異がないものと判断いたしております。</p>
	それよりも主要道路が近いので危険性が高いと思う。	交通事故等の安全性については、両候補地共に主要道路からの距離に大きな差異はなく、近隣での交通事故の件数等についても大きな差異がないことを確認しています。
2-5	緑地について、一中と西小を比べて、どう見ても西小の方が自然が多いのに「○」の表記なのか。	<p>仮評価は、小学校としての必要な整備が行われた状況を想定して行ったものです。その場合、どちらの校地が選定されても適正な緑地や遊具等の整備が行われることを想定しているため、同等の評価となっております。</p> <p>なお、第一中学校においては、小学校向けの手入れが必要で課題があること。西小学校においては、かつて現在の約10倍の児童が在籍していた学校であり、樹木等も多く敷地も広大で良好な環境である反面、児童や教職員の減少により現時点では適切な維持管理に苦慮しています。こうした実情も踏まえ「○」の仮評価となっております</p>
3	新小学校は一中がよい。理由は、西小よりも良いところがたくさんあるから。	校地選定については、子どもたちが小学校として活用するために、より良い教育環境や学校施設となるように客観的、合理的に判断いたします。
4	<p>戦後にアメリカのグラマン戦闘機が大町市の上空から航空写真を撮っている。戦時中に大町小学校の校庭は畑として耕されていたことが分かる。戦争という悲しい歴史がまさに目の前にある大町西小学校の校庭で、秋の運動会が開催された。子どもたちが生きた歴史を学ぶことは、本当の意味での人権教育でもある。</p> <p>小学校の桜も地域の若者たちが、子どもたちの未来のために力を寄せてくれた結果である。植えっ放しでなく、毎年毎年、桜の手入れをしてくれた結果が現在の桜である。中学校も、高校も、校名変更や統合を経て、古い校歌もなくなってしまった。残すべきものは何かをよく考えてもらいたい。歴史をないがしろにする、あるいは歴史を忘れる教育の未来からは、断絶や分断しか生まれない。</p> <p>教育委員の皆様には、高齢者や若者たちの心にある「無意識の中に流れる歴史」の重みを大切にお考えいただきたい。</p>	<p>西小学校と同様に、北小学校は旧平小学校からの、東小学校は旧社小学校から、それぞれの学校が引き継いできた歴史や伝統があり、どの小学校についても卒業生や住民の学校に寄せる想いや愛着があるものと思います。閉校となる4つの小学校の歴史や学校に寄せる地域の期待は、新たな学校へと引き継ぎ、これからの大町市の教育全体の中で生かしていくことが重要と考えます。</p> <p>なお、校地選定にあたっては、ご提案のような個々の学校の歴史や伝統について客観的な評価を行うことは困難であり、適切ではないと判断いたしましたので、評価項目にはいたしておりませんが、市民が学校に寄せる期待や愛着については十分理解しながら将来を展望した、より良い教育環境の実現に向けて努力してまいります。</p>
5-1	<p>学校再編に関する市民説明会は、既に為政者たちが結論を決めてあって、上意下達の最たるもので民主的ではない。広く人々の意見を聴取することなく、質問も「3分以内」と頭ごなしで疑問質問の中にある反対意見も封じられて進めていくやり方は、独裁そのものである。</p> <p>「◎」「○」「△」の数の多少で将来の学校の位置を決める拙速の方法は笑止の沙汰である。項目立ての内容で「◎」「○」「△」の数は多くも少なくもなる。「歴史的視点は」「地域の人々の学校環境への貢献度は」「小学校児童のための遊具は」という内容の項目がない。金額の多少の項目がすべてであった。「教育」という精神的価値を涵養する場としてどちらがふさわしいか議論すべき。金額の多少はその「価値」によって注ぎ込まれるべきである。</p>	<p>学校再編については、平成30年度から「少子化社会における義務教育のあり方検討委員会」で約2年間、その後「通学区域再編審議会」で1年間かけて学校再編の方針を審議いただき、その答申を受けて市長と教育委員会で組織する総合教育会議での協議を経て、令和3年9月に「学校再編基本計画」を策定いたしました。</p> <p>この間、市の広報紙で6回特集したのははじめ、ホームページ等や新聞報道等でも周知を図り、市民説明会等を開催すると共に、PTAや保育園・幼稚園保護者会等の要望に応じて懇談を開催するなど時間をかけて、できるだけ丁寧に説明しながらご意見をいただくため検討を進めてまいりました。</p> <p>今回は、条例に基づく通学区域再編審議会の答申で両論併記となっており、再編基本計画でも未定としていた大町・平地区の新小学校の位置を決定するに当たり、教育委員会で評価項目を選定して総合教育会議の協議を経て市議会全員協議会で報告し、その評価項目に基づいて仮評価を行い、さらに広くご意見をいただくために市民説明会等で仮評価の内容をご説明させていただきました。</p> <p>この仮評価は、小学校としてのより良い教育環境や学校施設の整備について客観的、合理的に判断するために行ったものであり、説明会のご意見やパブリックコメント等のご意見を踏まえて再評価するためのものであることをご理解ください。</p> <p>なお、市民説明会においてあらかじめ発言時間を3分程度でおまとめいただきたい旨お願いしたのは、多くの参加者からご発言をいただくためであることをご理解ください。</p>
5-2	<p>近代教育の出発した学校制度を創設するにあたって、明治初めの大町の先輩は、県下に誇る足跡を残した。その内容は、その時の功労者「山西孝三」によって「学びの糸口」に残されている。市文化財として関連する遺跡が大町西小学校正面に石碑として立つが、信州教育の出発の遺跡として、県下に誇れるものである。以来百年、大町市のPTA、卒業生関係者は「我が学校」として学校の教育環境の造成に尽力してきた。汗と情熱が傾注して今日がある。</p> <p>人が故郷を愛するのは、単にその地の風景がその地にあるからではない。その愛は「風土」に対する愛である。風土とは生身の人間の関わりなしでは成立しない。その風土を愛する大前提は、その地の先人の足跡を真正面から直視することである。「学びの糸口」をよく読んで、価値を決めてほしい。失われたものは再び帰らない。</p>	<p>ご指摘のとおり仁科学校(入徳館)から始まる大町の教育の歴史は極めて貴重なものであり、西小学校がその歴史と伝統を受け継いでいるのご指摘は理解いたしております。しかしながら、他の小学校にも地域の住民の期待や支援をいただきながら営々と築いてきた教育の歴史や伝統があり、学校に寄せる地域住民や卒業生の愛着や想いに差異はないものと思います。</p> <p>今後は、閉校となる4小学校がこれまで築いてきた歴史と伝統を踏まえ、新たな学校へと引き継ぎ、大町市のこれからの教育の中で生かしていくことが重要と考えますので、特段のご理解をお願いいたします。</p>

№	意見内容	教育委員会の考え方
6	何度が説明会に参加しているが、市民の意見を十分に聞き入れているとはいえない。このまま計画を進めることが、子どもたちにとってプラスになると思えない。乱暴である。市民投票を望む。	学校再編については、これまでも市の広報紙をはじめ市民説明会等を開催して説明に努めているほか、PTA組織等の各団体の要望に応じて懇談等を実施するなど、時間をかけて丁寧にご意見を伺いながら進めてきました。 また、ご提案の大町・平地区を通学区とする小学校地について市民投票を行うためには条例等所定の法的な手続きを定める必要があり、加えて候補地が全く異なった立地条件や財源等の諸条件にあり、しかも投票対象範囲の選定も困難なことから不可能なことをご理解ください。
7-1	候補地の案では、現一中を小学校にする案に賛成。 平地区からのアクセスを考えた場合、1ヶ所が南小学校になるのであれば、少しでも北に設置が望ましいと考える。	通学区区域内における地理的な位置関係等についても十分考慮することが必要と考えます。
7-2	校舎改修に関して、色々な面で現行基準に近い一中を高学年棟とし、低学年棟の新設が、これからの子どもたちの環境として望ましいと思う。	ご提案の趣旨も踏まえ、校舎改修後の教育環境等を総合的に判断することが必要と考えております。
7-3	改修時の安全性の確保に関しても、子どもたちのいない状態で作業ができ、仮設費用の発生も抑えられる点でも、現一中が最適だと考える。	学校の安全・安心の確保は最も重要な課題であり、改修工事の影響等を総合的に判断することが必要と考えています。
7-4	費用に関しても、教育委員会で積算していただいた案で、金額差が大きすぎるのが非常に気になる。環境クオリティを、低い基準クリアではなく、次世代にも通用する基準で考えるのが妥当だと考える。	西小学校の設計、施工監理を行った設計事務所から詳細な説明を求め、両施設ともに、現在の技術水準で可能な限りの対策を講じた結果を想定して仮評価を行いました。校舎の環境基準については、ご指摘のとおり将来にわたりできるだけ高い水準が確保できるよう努めることが重要と考えております。
8	別紙のとおり	
9-1	校地選定について、教育長は平小学校がなくなったと言ったが、40年以上前に北小を建設し、その後、東小学校を建設し、大町地域のコミュニティを分断した教育委員会として、大町地域のことをどのように感じ、どのようにしようとしているのか。 今回は大町地域を分断しないとして通学区を定めたようだが、小学校の位置はコミュニティを含めたまちづくりの考えなしに決めてはいけない。教育委員会だけで決めていい問題なのか。まちづくりの観点と地域住民の合意が必要と考える。	現北小学校や東小学校を新設した当時の社会状況と、急激な少子化が進む現在の社会状況では、教育環境の背景が大きく異なっており、昭和50年代に行われた学校再編については、その時代に即した状況の中で判断されたものと考えております。 今回の学校再編に伴う通学区については、急激に進む少子化を踏まえ、地域とともにある学校づくりを進めるために、住民代表や保護者代表、学校関係者や専門家等で組織する「義務教育のあり方討委員会」で約2年間検討をいただき、地域コミュニティと通学区の一致を図るようとの報告をまとめていただきました。 さらに、条例に基づき市民代表や保護者代表、教育関係者等からなる「通学区再編審議会」を設置して諮問し、ご指摘のようなまちづくりに関する観点も含めてしっかりとご審議いただき、大町・平地区を通学区とする小学校については、「現第一中学校または西小学校のいずれかの校地」との答申をいただきました。その結果を踏まえ教育委員会として「学校再編基本計画」を策定し、広報等で広く周知を図りながら候補地の選定を進めており、さらに広く市民のご意見を伺うために仮評価を行い、広報やホームページで周知を図るとともに、市民説明会やパブリックコメントでご意見を求めて選定することとしたもので、できるだけ丁寧に手順を踏んで進めておりますので、ご指摘のような教育委員会のみで決定しようとしているものではないことをご理解ください。
9-2	環境についての評価項目は、大人が知恵を出し考えれば解決できることがほとんどであり、それより、お金では買えない環境を重視すべきだと考えます。 桜並木をはじめ、トンネル山の庭、樹木の多さ、かけがえのない学習環境だと思う。そして何より、西小のあの場所は桜を含め、地域に愛されていると実感する。一中に見学に行ったが、確かにいい建物であることはわかるが、低学年棟を建設すると敷地の関係から窮屈な感じは否めない。子どもたちへの環境を重視していただきたい。	校地の選定には、教育環境は大変重要な要件と理解しておりますが、教育環境を構成する要素は、ご指摘の樹木や遊具、校地の広さをはじめ校舎の構造やスクールバスの運行、校地の安全性など多岐にわたるものと思います。 第一中学校の校庭南側に低学年棟を建設した場合は狭隘に感ずるとのご指摘については、小学校地としての適正規模の観点から検討させていただきます。
9-3	スクールバスについて、現在、仁科台中学校は市役所を利用してバスの乗降をしている。新中学校は仁科台中学校を使用することになっており、小学校も西小学校を使用することになれば北部方面のスクールバスについて、一帯の運用、利便性の向上が可能ではないか。 西小学校に乗り入れるのではなく、仁科台中学校のように市役所を利用すれば、現在の第一中学校より安全で、かつ運用の幅が大きく膨らむと考える。評価の再考を求める。	スクールバスの乗降場所等に関する仮評価については、安全に乗降できる場所の確保と共に、総合的に乗降場所として適地であるかを考慮して評価しております。学校地での乗降とご指摘のような学校地以外での乗降では、管理責任等の面から乗降場所の適地としての評価に差異が生じることは、ご理解ください。 なお、スクールバスの運行については、ご指摘のとおり小学生と中学生が同乗して運行することを含めて検討しております。
9-4	駐車場について、一中や西小には、まとまった駐車スペースが少ない。授業参観等保護者のために必要である。西小は、仁科台中学校と同様に市役所、また西公園の駐車場を活用できる。評価項目として加えてほしい。	両校地内の現在の駐車スペースについては、どちらも100台前後で同様の規模と判断しております。 なお、臨時的なイベント等への対応については、その都度、必要な台数等を考慮して臨時的な駐車場を確保するなどの対策を検討するのが妥当であり、通常教育環境としては、評価する必要がないものと判断しております。
9-5	工事中児童への影響について、今後何十年と使用する校舎のことと、2年間の工事の影響について、同列に扱うことがそもそも間違っていると考える。将来を見据えて校舎選定をすべきところを、近視眼的にしか見られない教育委員会の姿勢を残念に思う。評価項目の変更削除を求める。	工事期間としては2年間を想定していますが、教育環境として最も重要な要素は校地や校舎の安全と安心の確保です。また、工事に伴い将来にわたる樹木の伐採や環境上の対策等も必要になりますので、期間が2年間であっても工事に伴う児童への影響等を総合的に検討するために、改修工事を評価項目とすることは、必要不可欠と判断しております。
	1番納得が行かないのは1番人数が多くなる小学校をなぜ1番校地面積の狭い所に持って来ようとするか。どう考えても不思議でならない。さらに、納得が行かないのは一中の立地場所。北、東、南には道があり、いずれの道も大町市内でも交通量の多さでは上位を占める道ばかりである。北は直面して東のバイパスとの間には家が一軒あるだけ、南も2、3軒間に家があるだけという立地状態である。小学校をあえてこの場所に持って来る意味がわからない。	校地選定については、校地面積だけでなく、校舎改修後の教育環境をはじめ様々な観点から客観的、総合的に判断することが必要と考えます。 校地の面積については、全体では西小学校の方が約5,000㎡広くなっていますが、児童数や教職員数を考慮すると管理上必ずしも高評価につながらないことをご理解ください。

No.	意見内容	教育委員会の考え方
10-1	当然騒音も他の小中学校に比べたら相当なものとなっている。しかし仮評価では問題なしとの評価。説明会では窓を閉めていれば騒音は防げると言われた。学校が365日窓を閉め切って授業をするなんて全くありえない。この評価は全く現実離れしていると思う。	騒音については、国道147号の自動車交通騒音測定で環境基準が満たされていることや、両施設とも国道147号からは一定の距離があることを考慮しています。
	この3方の道に関しては登下校時の交通事故や校庭でボール遊びをしていてボールが道に出たら走行中の自動車にも危険が及び、児童の飛び出し事故の心配も考えられる。子どもは思いもしない行動を取る事がよくあるので。	ご指摘の校地の三方に道路があることは、西小学校の方が国道147号からやや離れているものの両候補地とも大差なく、近在での交通事故件数等については、大きな差異がないことを確認しております。
	また事故だけでなく不特定多数の車が行き来するので犯罪に巻き込まれる恐れも心配になる。	交通事故の防止をはじめ校地の安全・安心の確保は最も重要な課題ですので、防犯等の状況につきましても近隣の状況等を含め総合的に判断してまいります。
10-2	畑などは南に隣接する土地をお借りしてとの説明があったが、校地を離れたこの場所での活動も道から随分と近くなり誰に見られてもおおかない。先生の目の届かない所で子供達が見知らぬ人と接触する可能性も高くなるのではないかと心配になる。 プールも隣接するアパートに対して目隠しをしたり、防音設備を整えると書かれているが防犯の面からもしっかり評価していただきたい。プールを狙う変質者もいるから。 小学校でも夏休みにプールや水くれ当番など子どもたちだけで行動することが多々あるので事故や事件に巻き込まれる危険の少ない環境を切に願う。その点では一中の立地場所は、かなり評価は下がるはずだと感じている。	犯罪の予防や防犯については、校地の立地条件の周辺環境や他近隣住民の協力が不可欠と考えます。 学習に使用する農地や菜園の位置やプールの設置についても、想定される設置場所について十分検討すると共に、「大町市通学路安全プログラム」等を活用しながら交通安全や防犯の観点から総合的に検討してまいります。
10-3	学校は安心安全が第一条件だと思うが。 スクールバスの乗降場所について、現在東小、北小、一中、仁中ともに校地内には車を入れず門の外の道沿い(東小、一中)少し離れた空き地(北小)市役所(仁中)にて乗降する予定である。 今回、一中も西小も校地内にて乗降する予定のようですが、どちらの学校も昇降口に近く他の登下校の児童達が沢山いる状態になると思うので賛成できない。 また、どちらも門から入るのにバスのドライバーさんが苦労されていたのを過去に保護者として何度も目撃している。乗降場所だけでなく実際に出入り入ったりする事も考えて評価していただかないと現実的ではない。再考願う。 ちなみに一つの案ですが、西小だったら仁中と同じ市役所が良いのではないかと考える。バス通でないお友達と途中まで一緒に登下校する経験も出来また時間帯によっては小中一緒に登下校するのもメリットがあると思う。	ご指摘とおり学校の安全・安心の確保は最も重要な要件です。スクールバスの乗降場所等に関する仮評価については、安全に乗降できる場所の確保と共に、総合的に乗降場所として適地であるかを考慮して評価しております。 なお、西小学校を校地として市役所敷地内を乗降場所とすることができるとのご提案ですが、市役所駐車場には不特定の方の利用が頻繁であり、教職員の指導が行き届く校内に比べ管理上の課題があり必ずしも適切とは判断いたしかねます。
10-4	約2年の仮校舎での生活は先生にも児童にも大きなストレスになると市役所の方に言われた。2年間丸々仮校舎での生活になるのかと思って聞いていたが約6回の引っ越しが必要と書かれていて、もしかしたら学年ごとに交代で仮校舎を利用するのかなと理解したが。 給食のことも書かれていたが、給食室の工事の時は我が子も西小でも一中でもお弁当を持参していた。それは仕方ない事だと理解していた。 一中では低学年のランチルームを設置すると書かれていた。それなら西小でも同じように仮校舎で給食を取るのではなく運搬配膳等対応し易いようにランチルーム式に給食をいただければ良いのではないかと。 この様なイレギュラーな状態は、一生に一度経験できるかどうかの体験となると思う。大変だ大変だと思うのではなく、みんなで知恵を絞れば良い結果が生まれると思うが、2年間の仮校舎で受ける期限付きのストレスと一中の立地場所で、ずっと続く事故事件に対する対策や行動制限によるストレスとは児童や先生方にはどちらがより大きいのでしょうか。	約2年間と想定される仮設校舎を設置しての工事期間については、給食をはじめ校庭の使用や教室への異動などについて児童への影響が大きいと教職員からも意見をいただいております。必要な評価項目と考えております。 また、工事期間中、第一中学校と同様に西小学校にもランチルームを設けてはどうかのご提案ですが、第一中学校には既にランチルームが整備されており、新たにランチルームを設置するためにはランチルームに適した相応の施設整備が必要になってまいります。 改修工事が良い経験となるのでは、とのご意見につきましては、安全性などを考慮すると単に工事を行うこと自体が社会勉強になるとのご意見には疑問が残ります。また、第一中学校が校地になった場合にはストレスが継続するとのご意見は、感想として受け止めさせていただきます。
10-5	仁中の工事や南小の工事もある。資金面や財政面で多大な出費が同時に発生する事になり、少しでも費用を少なくしたいという行政の皆様のお立場も十分理解しているつもりである。でも今回の校地選択で大町・平地区の学校が永久に決まるとなると、やはり「小学校」という特別な場所を現在の中一の立地場所にするにはどうしても賛成できない。どうか長い目で見ていただけないものか。 前回のパブリックコメントで大町・平地区の校地校舎選定にあたり「南小との格差をつけないでいただきたい」という意見があった。確かにそうだと思った。南小も自然豊かな校地である。今回、南小も西小案と同じ位の改修工事がされるのだから、西小だったら校地校舎ともに南小と同じレベルになり不公平感を感じずに済むのではないかと。	校地選定に当たっては、小学校として活用するためにより良い教育環境や学校施設であることを客観的、合理的に判断することが必要と考えます。 また、南小学校の校地選定については、「通学区域再編審議会」の答申を踏まえて策定した「学校再編基本計画」に基づいて決定したもので、第一中学校地と西小学校地のいずれかが適当と答申いただき、再編基本計画でも同様の内容としている大町・平地区小学校の校地の選定とは大きく異なることをご理解ください。
10-6	子どもにとってとても大切な6年間。 旧市内4地区の子どもたちが自然豊かな静かな環境で子どもらしく伸び伸びと学校生活を送り、色々な経験を積み重ねて大きく成長してもらいたい大町中学校に揃って進んでもらいたい。 この大町で生まれ育った子どもたちが大きくなった時に「この小学校で過ごせて良かった。この中学校で過ごせて良かった。」「自慢なんです。誇りなんです。」と思ってもらえるそんな校地校舎を関係各所の方々には是非とも選んでいただきたい。	校地選定については、学校としてより適切な教育環境や学校施設であることについて客観的、合理的に判断することが必要と考えます。卒業した児童が母校に愛着を持ち、誇りに思うことは大切ですが、そのことはどの学校でも同様であり、客観的に評価するべき要件にはなり得ず、学校の歴史や伝統を評価項目に加えることは適切でないと判断しております。
10-7	立地場所の選定に工事に関することや、費用的なことを含めるのは、やめてもらえませんか。純粋に小学生の学ぶ場所に相応しい場所を考えていただきたい。一市民としての切なるお願いである。	評価項目は小学校としての客観的、合理的に小学校の適地を選定するために必要な要件を教育環境や施設設備等様々な観点から選定し、総合教育会議での協議を経て議会へも全員協議会で説明したものであり、工事や費用についても必要不可欠な評価要件と判断しております。

№	意見内容	教育委員会の考え方
11-1	<p>屋外活動環境の評価について、学校の当事者である子ども達の学びについて一番重要な部分であると考えている。</p> <p>「遊具、遊び場の設置」「プール」については、主な意見に「すでに整備されている」とあるのに評価が一中と同じ「○」なのは疑問。西小が「◎」で良いのでは。</p> <p>「緑地、花壇、親水施設、菜園ほか」については、西小は広大で十分整備されているならば、将来的にも多様な使い方が出来る可能性があるとは考えられないでしょうか。今の子どもたちは土に触れる機会が少ないので、様々な使い方が出来る場所が多いことはとても価値のある事と考える。西小は「◎」であるべき。</p>	<p>仮評価は現状の施設状況でなく、小学校としての施設改修や不足する施設等の整備が行われた状況を想定して行っています。</p> <p>ご指摘の「遊具、遊び場の設置」やプールについては、整備後は両施設とも同水準となることが想定されることから同等の評価となっています。</p> <p>また、「緑地、花壇、親水施設、菜園ほか」については、西小学校はかつて現在の約10倍の児童が在籍していた学校であり、樹木等も多く敷地も広大で良好な環境である反面、児童や教職員の減少により現時点では適切な維持管理に苦慮しております。こうした実情も踏まえ「○」の仮評価となっていますが、ご指摘の点も考慮して検討いたします。</p>
11-2	<p>その他の評価について</p> <p>通学路の安全性については、西小は宅地に囲まれていて道路は狭いが、その分スピードを出す車も多くなり安全だと思う。宅地が多いということは、地域の方々から登下校の子どもたちを見ている機会も多く、地域の方々から守られながら通学ができると考える。よってここは西小が「◎」なのは。</p>	<p>これまでに両候補地の付近で発生した交通事故等について検討した結果、第一中学校、西小学校ともに発生件数等に特段の差異は見受けられません。このため近隣の道路状況等も考慮して同一の仮評価となっております。</p>
11-3	<p>工事の影響の評価について、圧倒的に一中が評価されている。確かに一中は児童がいなくなるので工事がスムーズでやりやすいということは理解できるが、工事のしやすさという理由で一中に決めて良いのか疑問が残る。</p>	<p>改修工事の影響だけで候補地を選定するのではなく、工事の影響等も含め教育環境や費用等様々な要件について検討し、総合的に判断することが必要と考えます。</p>
11-4	<p>改修費用の評価について、市の実質的負担は、西小の方が3億円程高いようですが、国庫補助金も圧倒的に多いようであるし、子どもたちの為なら3億円程多くても良いと私は考える。</p>	<p>改修費用も評価項目の一部ですが、教育環境など他の評価項目と併せて総合的に判断することとしております。</p>
11-5	<p>仮評価表の集計を見ると一中の方が良いと見えるが、評価表の項目に歴史的な価値についての項目がないのは納得がいかない。説明会では誰でも母校に対する想いはあるので理解してほしい旨の答弁はあったが、西小は150年の歴史がある。これが続いていけば180年、200年と伝統は続いていく。この伝統を続けていくことが大町市民のシビックプライド（この言葉は個人的には好きではないですが）になっていくのではないかと。</p> <p>皆が大事にしている桜の木もある。地域の皆さんが植えてくれて守っている。この桜の木の下を子どもたちが歩くことに意味があり、桜の木の下でお花見給食をしたことが子ども達の記憶に刻まれる。</p> <p>最終決定をする教育委員の皆様にも、「想いはわかりました」と言われそうであるが、子どもたちの為にも大町市のためにも西小の場所に小学校が続いていくことが重要である。多くの市民がそう思っている。その民意をどうかご理解いただきたい。</p>	<p>西小学校の元になっている大町小学校が白塩町から現在地に移転したのは、昭和5年ですが、北小学校の元になった旧平小学校は昭和3年に、南小学校の元になった旧常盤小学校は昭和4年に移転し、旧社小学校は昭和13年に統合移転されました。移転や統合があってもそれぞれの学校には、それぞれ大切に引き継いできた長い歴史や伝統があり、地域住民や卒業生が学校に寄せる想いや愛着も同様にとっても深いものがあると思います。再編によって市内の学校数は減少しますが、それぞれの学校が培ってきたこうした歴史や伝統は、これからの2校で引き継ぎ、大切に育んでいきたいと願っています。</p> <p>新小学校の校地の選定に当たっては、地域の皆さんや卒業生がそれぞれの学校に寄せる想いや愛着は十分理解いたしますが、どの学校も平等であることに配慮して検討いたします。</p> <p>なお、どちらの校地が選定されても地域住民や関係者の皆さんが大切に育ててこられた各学校の歴史や自然環境、校内の史跡等については今後も大切にしていきたいと考えます。</p>
12	<p>大町市の未来を創造する中で子どもたちの教育のテーマはもっと市民が真剣に考えないといけないテーマだと感じている。この地に生まれた子どもたちがこの地を大切に、誇りを抱く郷土であって欲しいと願うが、今はそのような順を行っていかなくてはどうか。その時々で環境は変わるので教育も順応して変革をしていかなくてはならないが、実際にどのような方向性で教育が行われているのかよくわからない。</p> <p>実際に大町岳陽高校の学生に仁科三湖の名前を聞くと答えられるが、実際にその場所に行って「この湖は何湖」と聞くと答えられない学生が多いと思う。自分の職場で雇用したアルバイトの方はほとんど答えられなかった（皆、大町市内の学生です）。山についても同様。鹿島、爺ヶ岳、蓮華岳などどれがどの山か答えられない。見たことも無い遠いところの山脈を覚えるより目の前の山を知って欲しい。「北アルプスってどこ」って聞いてくる学生も珍しくない。川も同じ。もっと言えば、平、大町、社、常盤がどの地域なのか理解していない中学生も珍しくない。学校だけでなく、我々大人も何故、こういう事を教えてこなかったのか今こそ反省するべきである。</p> <p>平小、大町小、社小、常盤小を東西南北にしてしまった当時の大人にも未来を読み解く力がなかったのだと感じる。子どもが減るから学校を再編するのは仕方ないと思うが、結果その地域の子ども達の減少を加速させることは他の地域を見ても明らかである。</p> <p>このような環境の中、郷土を勉強する視点、地域住民からの学校への想いなど、校舎などの施設整備では獲得しえないものがあると思う。大町市というところがこれから存続をしようとするのであれば歴史を知り、未来の子どもたちに伝えていく事が必要だと感じる。校地の選定にはこのような視点が自分には最も大切だと感じる。</p> <p>単純に新しい校舎だから使うということで決定される流れには納得できないし、一中に校舎以外のメリットが感じられない。大町というブランドを守るために現在の西小を大切にすべきだと考える。</p>	<p>学校をはじめ広く地域の歴史や伝統を理解し、大切に育てようとする心は教育上きわめて大切であり、貴重なご意見をいただきました。</p> <p>西小学校の元になった入徳館は明治5年、現在の下仲町に創設され、7年には仁科学校となり、さらに大町小学校となり、明治30年には白塩町に移転しました。その後、現在地に移転したのは、昭和5年ですが、この移転には反対運動が起きました。しかし、当時の住民は子どもたちのことを考えて反対運動をやめることにしました。このことを後に大町小学校長になった桐原与喜一校長は大町の教育に寄せる住民の深い理解として『百周年誌』に記述しています。</p> <p>北小学校の元になった旧平小学校は昭和3年に、南小学校の元になった旧常盤小学校は昭和4年に移転し、旧社小学校は昭和13年に統合移転されました。</p> <p>ご指摘の校名が「東西南北」となった昭和50年代初めの統廃合の際は地区に小学校がなくなる平地区を中心として移転反対運動が起きました。何とかご理解をいただくことができました。</p> <p>こうした移転や統合があってもそれぞれの学校には、それぞれ大切に引き継いできた長い歴史や伝統があり、地域住民や卒業生が学校に寄せる想いや愛着も同様にとっても深いものがあると思います。再編によって市内の学校数は減少しますが、校名や校地の場所に関わらずそれぞれの学校が培ってきたこうした歴史や伝統は、これからの2校で引き継ぎ、大切に育んでいくことが重要ですので、このような観点に立って校地の選定を行います。</p>

指標	項目	視点	第一中学			西小学校			考察、明らかにしたい点	教育委員会の考え方
			委員考察(8月)	仮評価	提案	委員考察(8月)	仮評価	提案		
校舎	断熱性	寒暖効率など、空調	校舎が比較的新しく外断熱構造のため断熱性が高い。	◎	◎	改修工事により耐熱性能は現在より向上するが、構造的に一中とは同等にはならない。	○	◎	西小改修後に断熱性の「一定の基準」を満たしているのであれば、使用上何ら問題はなく、両方◎ではないでしょうか？ 差をつける意味はありますか？ また、熱のロス窓の寄与率が非常に高いのは一般常識ですが、一中建設時から20年弱になるので、窓の性能向上は著しいものがあるのではないのでしょうか？ 仕様の比較はできませんか？ 評価項目「気密性」と内容はほぼ同じであり一つにまとめて良いと思われま	8月の定例教育委員会の評価時における建築設計事務所からの説明では、西小の校舎に断熱工事を施した場合、かなり断熱効果は上がるものの、相対的に見れば一中の断熱性能には及ばないとの説明を受けたことから仮評価には差が出ています。
	気密性	空調効率など、	校舎が比較的新しく外断熱構造のため断熱性が高い。	◎	-	改修工事により複層ガラス樹脂サッシの導入等で一中と同等が可能。	◎	-	↑	建築設計事務所からの説明により、断熱性能には差があるものの、気密性は窓の入れ替えによって同等の性能となる見込みと説明を受けていることから別項目として評価しています。
	防音性	外部騒音の遮断など	校舎が道路から遠いため問題なし。	◎	○	改修工事により複層ガラス樹脂サッシの導入等で一中と同等が可能。校舎が道路から遠いため問題なし。	◎	◎	実際に一中の生徒もうるさいと言っているわけで、一中の判定は○ではないでしょうか？ 国道147号、県道326号に面しており、大型車も頻繁に通過することから、そもそもの騒音レベルが違い、明らかな差があります。屋外騒音の測定値はございませんか？ 窓を閉めれば良いとの話もありましたが、やはり開放的な授業がやり難いし、コロナ換気なども気にされる方もいらっしゃると思いますので、閉めれば良いはちょっと乱暴な気がします。	教育委員会で現場を確認した限り、問題になるほどの騒音は確認できておらず、また国道147号の自動車交通騒音測定で環境基準が満たされていることや両施設とも国道147号から一定の距離があり、評価に差をつけるほどの環境に違いはないと判断した評価となっています。
	バリアフリー達成度	EV設置など、車イス移動	EVが整備済み、バリアフリーの基準をクリアしている。	◎	◎	EVを新設する場合、構造上2基となる。校舎内の段差が多い。	○	◎	バリアフリー基準とは？ 具体的な基準を示してもらえませんか？ 西小の基準を満たしていない箇所はどこで、そこについて改修で対応できない理由を示すべきだと思います。本当に知恵を出しても改善対応できないか？ 疑問は晴れません。 また、現時点でのエレベータの整備有無は評価に関係しないので、西小は建物の外側に設置する前提となり差はない判断で良いのでしょうか？ 設置済が◎この考え方だと屋外活動環境は既に整備できている西小がすべて◎になるのでは？	学校におけるバリアフリーの基準は、平成16年に国が示している学校施設バリアフリー化推進指針(平成2年改訂)、令和3年の改正バリアフリー法などになります。 一中は国から示された指針を踏まえた平成16年の設計であり、各所で段差のない施工がされています。西小では昇降口前の段差や昇降口での段差をスノコなどで対応しており、こうした細かい部分は改修工事で治すことはできると想定しています。しかし、「移動しやすい屋内の通路」「円滑に利用できる階段」などの視点では、西小の廊下や階段の狭さが目立っていることから、西小を○と評価しています。
	機能性	校舎面積、線、駐車場など、児童の動	教室数に余裕がある。	◎	◎	教室数が少ない。階段やトイレが狭い。低学年棟のバッテリー型校舎の改善が不可。	△	○	教室数は開設当初足りないだけではないのでしょうか？ 数年も経たないうちに余ってくると容易に予測できます。人口動態を加味して評価すべきだと思います。 また、西小の改修は基本構成は全く変えずに化粧直しするだけの改修なのではないでしょうか？ 不利とされている階段やトイレなどの改善ポイントは今現在も問題なく使われておりますが、本当に改善できないのでしょうか？ 特に低学年はこれまでの教室の形態にとられず、アクティブラーニングを意識した形に変えるべきだと思います。	一中の校舎には美術室や教科準備室など、中学校特有の教室があり、小学校とした場合には使用しないため相当数の空き教室が出てきます。一方、西小は現在、各学年で使用している空き教室の学年室がなくなります。将来的に人口、クラス数が減って教室数に余裕が出てくるまでには相当の期間が必要となることから、一中が◎、西小が○としています。また、一中ではさらに余裕教室が増えることから、活用方法の選択肢も増えることとなります。また、現在の西小教職員の希望では、現在のような余裕教室の活用が必要という声もあり、余裕教室数の多い方を高評価としています。 西小の大規模改修については現在の階段や廊下の幅を拡幅することは想定できません。躯体そのものを大規模改修するとなれば、費用がさらに増高し、国の長寿化補助対象になるか否かについても現時点で未確定です。

指標	項目	視点	第一中学			西小学校			考察、明らかにしたい点	教育委員会の考え方
			委員考察(8月)	仮評価	提案	委員考察(8月)	仮評価	提案		
	駐車場	イ保護者 ト駐車場 など、	-	-	△	-	-	○	<p>駐車場については、児童の安全とイベント時など保護者の利便性に直結する項目なので独立項目にするべきだと思います。現在の想定駐車場可能数を示す事はできませんか？</p> <p>一中は駐車場が少なく今でも困っている状態ですが、再編で更に増える事は必至ですが西友を使い続けるのでしょうか？</p> <p>一方、西小は敷地も広く校舎の周りや近隣の西公園、市役所、情報センターなどと公共施設との連携が可容易だと思います。</p>	<p>駐車場については、どちらも100台前後で大差なく、臨時的なイベント等の対応については、直接、教育環境としては評価に値しないと想定されます。仮に評価項目に追加した場合はどちらも同評価の○になるもの考えています。</p>
屋外活動環境	校庭	広さ、 さ、使 いや	約12,000㎡ どちらも市内の他の小学校と同等レベル	◎	○	13,169㎡ どちらも市内の他の小学校と同等レベル	◎	◎	<p>校庭だけでなく、敷地面積、未整備の低学年の遊び場面積、プール面積なども示して比較すべきではないでしょうか？</p>	<p>敷地面積については評価表に追記することとしています。未整備の遊び場やプールについては同等規模の施設を整備することとしています。</p>
	遊具、遊び場の設置	位置など	西小と同等の整備が必要と考えられる	○	○	すでに整備されている。	○	◎	<p>一中ではどの程度同等にできるのか？ 見えません。</p> <p>西小の遊び場は素晴らしい環境と考えます。また、校内を一周できるマラソンコースもあります。</p>	<p>屋外の遊び場は学校ごとに内容や広さも異なっており、新しく整備する一中については、整備指針等を踏まえて現代のニーズに合った施設を同程度整備することを前提としていることから、同等の評価としています。</p> <p>どの項目においても「同等に整備する」という内容を不透明で見えないとするのは、評価そのものを否定することになりかねないと考えていますので、ご理解をお願いします。</p>
	緑地、花壇、菜園、ほか	位置など	校地、中庭、グラウンド周辺を活用して環境整備を進める	○	○	広大な敷地に十分整備されているが、将来的な管理負担を見据えると多すぎる感もある。	○	◎	<p>一中ではどの程度同等にできるのか？ 見えません。</p> <p>西小の岩魚の住む御所川の存在は大きいです。大町市の大きな財産である水を生かした教育に最適ではないでしょうか？</p> <p>西小の広い敷地は、使い勝手やバスの転回などの改善の余地が残されていると考えられないでしょうか？そのための伐採なども必要な措置に対して反対する理由は有りません。</p>	<p>評価内容に記載のとおり、西小は現在の約10倍の児童が在籍していた学校敷地であり、広かつ良好な自然環境である反面、将来的な維持管理上のデメリットの懸念も踏まえた評価となっています。</p> <p>ご指摘の御所川の水環境を活用した学習などについては、大町・平小学校の児童だけに限定せず、将来的に他の小中学校、保育園・幼稚園、地域の皆さんなど、多くの方が親しむ場所として保全、活用していくことも想定される場所です。</p>
	プール	位置、 使 やすさ	西小と同等の施設が整備される。隣地にアパートが建設されているので、目隠しや防音などの対策が必要。	○	○	すでに整備されている。	○	◎	<p>一中は水深の浅い低学年用の浅いプールは想定できていますでしょうか？特に低学年用プールを作ったときに、高学年用、低学年用、それぞれ西小同等面積にできるのでしょうか？ シミュレーションできていたら示していただけますか？</p> <p>結果は分かりませんが、西小の方が広く使い勝手が良さそうなので◎としました。</p>	<p>現在の一中プールは老朽化しているため全面改築となりますが、当然、現在の小学校基準に適合したプールを整備することが前提となります。38年前の昭和59年に施工した西小のプールと同等になるかは現時点では不明ですが、現代の基準に合わせた屋根付きなどの機能の付加機能も踏まえた、大町・平小学校にふさわしい施設整備が必要と考えています。</p>
	屋外騒音	屋外騒音	-	○	△	-	○	◎	<p>小学校は中学校に比べ屋外活動が多いので屋外の騒音項目は独立して入れるべきだと思います。</p> <p>先にも書きましたが、国道147号、県道326号に面しており、大型車も頻りに通過することから、そもそもの騒音レベルが違い、明らかな差があります。一中は屋外騒音環境は良くないと思います。</p>	<p>前述のとおり、現場を確認した限り、問題になるほどの騒音は確認できておらず、また国道147号の自動車交通騒音測定で環境基準が満たされていることや両施設とも国道147号から一定の距離があり、評価に差を付けるほどの環境に違いはないと判断しています。</p> <p>※評価項目に追加します。</p>

指標	項目	視点	第一中学			西小学校			考察、明らかにしたい点	教育委員会の考え方
			委員考察(8月)	仮評価	提案	委員考察(8月)	仮評価	提案		
その他	通学時間	距離による影響	位置等からどちらも同等	○	○	位置等からどちらも同等	○	○	神栄町、大新田など徒歩通学で影響が大きくなる児童数が多いことが気になります。 平は元々スクールバスで運営されているのが、バス通は便を増やせば、通学時間はかなり改善されるのではないかと考えます。	地区によって通学方法が変わることは当然であり、どの地区についても通学時間が変わることが想定されています。
	通学路	安全性の確認	歩道がある県道檜ヶ岳線に隣接し、国道147号まで100m	○	△	市道に接し、国道147号まで150m	○	○	一中は△が妥当ではと思います。 やはり重大事故リスク＝車のスピード×車の量で考えるべきであり、交通量とスピードが違いすぎます。何かあった時の重大事故が発生するリスクは高いと言わざるを得ません。 一中は今現在でも登下校の際に先生のケアが必要であり、小さな子どもたちが増え、ケアはかなり大変になることが想定されます。小さな子どもたちの動きは予想できません。特に雨天時などは送迎の車が激増するので心配されます。	これまでに発生した小学生の交通事故は比較的少ない件数であり、交通事故全体でも一中、西小近隣での発生件数に大きな差異は見受けられません。
	スクールバス	乗降場所の確保	車止めを外してバスの転回スペースを確保する必要がある	◎	○	バス乗降スペースがやや狭く北東門の拡張整備が必要。国道147号からの道路がやや狭い。	○	○	一中は県道からの入口狭く、県道沿いでの乗降は危険なので内部に旋回スペースが必要となる。西小も入口付近の拡張が必要だが、スペースがあるので改善できる。接続道路は少し狭いくらいの方がスピードも出せず、安全であると言えませんか？ また、西小では市役所で降りるなど工夫や分散が可能と思われます。近くの大町中学校と一体化したスクールバス運用など検討の余地があるのではないのでしょうか？	教育委員会の評価では、西小の東門付近や東側からの進入路が狭いため、やや危険との評価です。校地を離れたスクールバスのバス停設置は現時点で想定していません。
	地理的要因	全市係的な位置関係	大町・平地区の小学校として通学区域の中心地にやや近くなる。	◎	○	大町・平地区の小学校としてやや南寄りになる。	○	○	将来の1校化まで見据えたり、全市的であれば西小が中心市街地近く、幼保小中連携しやすさ、公共施設に近く有利で◎であると思うが、通学時間が同等であると評価するのであれば両方○ではないでしょうか？	前回の教育委員会で項目の表記を変更したとおり、「全市的な位置関係など」から「通学区域内での位置関係など」としています。また、幼保小中連携は施設間の距離はあくまで重要ではなく、公共施設からの距離も今回の評価対象としていません。
工事の影響	改修中の安全性	児童、教職員への影響	児童がいない状態で工事するため問題はない。	◎	◎	工事中は安全のために最大限の配慮がされるのが前提となる	○	○	仮設校舎を活用したり、工事期間を工夫するなど、安全への配慮が必要になる。都会などはもっと厳しい条件での工事もたくさん行なっていると思うので、しっかりノウハウを注ぎ込んで、西小に合った形に最適化して進めてほしい。	仮設校舎の活用や工事期間を短縮したとしても、児童への影響は少なくないと考えられます。都会などでは、より厳しい条件もあるので参考にしたい。この提案ですが、ノウハウを次ぎ込まなくても、より安心安全な改修が可能候補地があるため評価に差が出ています。
	改修中の利便性	児童、教職員への影響	児童がいない状態で工事するため問題はない。	◎	◎	校庭への仮設校舎建設に伴い、西公園のグラウンド利用や他教室への移動、また、給食運搬等にも課題がある。	△	△	評価項目「改修中の利便性」、「改修に伴う作業」これは同じことを言っているので一つにまとめて良いと思われます。視点もコメントもほぼ同じです。 工事の問題は、この2年の工事期間を如何に良くするか大人が知恵を絞って考える事だと思います。これまでの常識や前提を取り払って、ゼロベースで子どもたちのために何が出来るか？考えるべきです。南小も同じですので、西小での経験も生かします。 この直近2年も、この先20年30年と使っていく未来もベストを尽くしていきたいです。	改修中の利便性は仮設校舎への移動やグラウンドの移動等の恒常的なことを指しており、仮設校舎への移転作業などは臨時的な別の作業負担としており、別項目としています。 この2年の改修期間をいかに良くするかを考えた結果が、そのまま評価の差に表れていると考えています。子どもたちにいかに負担を与えずに改修工事を進めていくかの最適な選択が何かを検討したうえで評価結果となっています。

指標	項目	視点	第一中学		西小学校		考察、明らかにしたい点	教育委員会の考え方		
			委員考察(8月)	仮評価 提案	委員考察(8月)	仮評価 提案				
	改修に伴う作業	児童への影響	児童がいない状態で工事するため問題ない。	◎	—	仮設校舎建設に伴い複数回の教室移転、引っ越し作業が児童、教職員の負担となる。	△	—	↑	上記同様に、恒常的な教室間移動の負担と、臨時的な6回程度の移転作業の負担については別項目としています。
	改修スケジュール	開校までの準備期間	スケジュールにやや余裕があり、早期の移転が可能。	◎	◎	R4劣化度調査、R5設計、R6～7未完了。校舎の劣化具合等により改修工事が伸びる可能性もあり、工期が課題となる。	○	○	課題はあるが間に合わないということはないと思われる。	西小の大規模改修は劣化度調査、実施設計、改修工事と、非常に厳しい工程が見込まれます。工期が短ければ音の出る作業を土日や休み期間に集約することも困難となり、より大きな負担となる恐れがあります。
	校舎環境への影響	工事に伴う伐採など樹木の伐採	一定の樹木等の伐採が必要	○	○	一定の樹木等の伐採が必要	○	○	樹木の伐採の評価項目どちらも伐採するため不要かもしれませんが、このままでも良いと思います。 よく言われる、西小の仮設工事のための校門付近の桜が邪魔とのコメントがありますが、その桜は今まさに寿命が近く植え替えのタイミングであります。未来に繋げる工事のために行う数本レベルの伐採や剪定は、次の100年に繋がっており問題になることは無いと考えます。	
改修費用	事業費総額	全体の費用	12億8,800万円	◎	◎	25億4,800万円	○	○	工事が与える地元経済への経済効果は事業費が大きい方が良いと考えられますでしょうか？ そうであれば評価は変わります。	校地選定において経済波及効果は考慮していません。財源の多寡によらず、総事業費によって評価しています。
	国庫補助金	国庫交付金	6,720万円	○	△	10億1,920万円	◎	◎	一中は補助金がほとんど出ないので△ではないでしょうか？	少額ですが一中にも補助金が全くないわけではありません。
	市入債額の借	有価証券の購入	12億円	○	○	12億円	○	○	同等であり問題なしと考えます。	
	市実額負担	後年度の財政負担	3億8,080万円	◎	◎	6億8,880万円	○	○	市費の負担差異があるので問題なしと考えます。	市の実質負担に3億円以上の差異があります。
	経済効果	持ち出しに対する事業費総額	—	—	○	—	—	◎	持ち出しに対して総工費が何倍か？というレバレッジ指標を追加したらどうでしょうか？ 高い方が費用対効果で見てお得と考えられます。 西小：25.4億/6.8億=3.7倍 一中：12.8億/3.8億=3.3倍	学校再編においては、通常の公共事業と異なり、経済波及効果を考慮していません。

指標	項目	視点	第一中学			西小学校			考察、明らかにしたい点	教育委員会の考え方
			委員考察(8月)	仮評価	提案	委員考察(8月)	仮評価	提案		
	ランニングコスト	維持管理費	—	—	○	—	—	◎	<p>説明会でも話が出た維持管理費用の項目は追加して欲しいと思います。どの程度想定されるのか把握しておくことは重要だと思います。これまでの実績等の数字があれば出していただけませんか？</p> <p>一中は建設からそろそろ20年が経過するので、今後のメンテナンス費用は増えてくるのが想定されます。建物は100年持つと言っている方もいらっしゃいますが、数字で示すべきです。</p> <p>一方、西小は設備は全て刷新されるので当面のメンテナンスは発生しないと予測します。</p>	今後の維持管理費用については、現時点では推計が困難なことから、評価対象として客観的な数値を提示することは困難です。
その他	歴史的価値	長い歴史を生かした教育	—	—	○	—	—	◎	<p>一中と西小を比べるのであれば歴史的な項目も追加したほうが良いと考えます。(当然、各小学校の歴史はあるが意味合いが違う) この歴史を生かすことは考えないのでしょうか？</p> <p>そもそも安易に150年の歴史をなくして良いのか？という話だと思います。消すのは簡単かもしれませんが一度失うと取り戻すことはできない歴史です。この大町の教育史そのものである150年の歴史は持続していく事の大切さを学ぶ最適な教材であると思います。150周年 記念で行ったSDGsの授業も、まさに持続可能な開発目標に通づるものであったと思います。加えてもう少し近代に目を向けると、西小は元々は元々大町小学校であります。マンモス化により分散し大町西小学校になりましたが、少子化により大町小学校に戻る事に違和感を感じる市民は少なく、むしろこれまで大町地区が分断されてしまっていた事の問題が大きく、これにより失ったものが解消され、歓迎する市民が大多数であると思われれます。</p>	歴史的評価については、今回の大町・平地区を通学区域とする小学校校地の選定だけでなく、これまで通学区域再編審議会で協議してきた新中学校の位置及び常盤・平地区を通学区域とする小学校の位置においても、それぞれ歴史や伝統、思い入れは同じようであることから評価基準としては適さない判断し評価項目としておりません。どの学校の歴史も軽んじてはならないし、また西小学校の歴史だけが特別だとは考えておりません。この歴史の活かし方については、今後の跡地利用の中で検討されるべきものと考えていますが、いずれにしても校地選定の後の段階で検討すべきものと考えています。
審議会の評価表より	児童クラブ	児童施設との状況	児童センター内(600m)	—	○	児童センター内(150m)	—	○	児童クラブは全て校内に設置するのでしょうか？校内に設置するのであれば同等であると思います。	児童クラブの位置づけについては、校地決定後に協議していきますが、一中校舎の中に児童クラブを設けることも可能です。
	保育園・幼稚園・無	園児との交流	くるみ保育園(1.4km) はなのき保育園(1.7km) こまくさ幼稚園(600m)	—	○	はなのき保育園(900m)こまくさ幼稚園(370m)	—	◎	幼保交流の充実化のためには学校は近い方がよいと考えます。特に徒歩で気軽に交流できると頻度も上がり、交流の質も高まります。	前述したとおり幼保小交流は施設の距離によって判断するものではなく、指導内容の統一や交流事業内容の充実が肝要と考えています。
	医療機関の有無	緊急時及び関連	有(開業医)	—	○	有(総合病院)	—	◎	一中は総合病院ではないが通常時は問題にならない。ただ、緊急時は救急車を呼ぶことを想定し、通報から消防署→学校→総合病院までの必要時間で比較すべきだと思います。1分1秒を争う状況もあり、1分以上差がつくので○が妥当ではないでしょうか？	医療機関の有無については、校地選定には関連性が希薄と考えています。
	公共施設等	校外活動等	市立図書館・西公園	—	○	市役所・情報センター・西公園・市立図書館・大町中学校・岳陽高校	—	◎	フレキシブルな対応や連携のしやすさに優位差があると思われれます。	公共機関の有無については、校地選定には関連性が希薄と考えています。